



# AUE News

2012年2月1日

第 33 号

編集・発行  
愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



## 目次

- 省エネニュース@愛教大
- 行事予定(2月1日-15日)
- トピックス
  - ・ 招へい研究者による第3回講演会
  - ・ 共同大学院博士課程開設の懸垂幕を設置
  - ・ 育児トーク昼食会
  - ・ ブックツアー購入図書を附属図書館で展示
  - ・ 碧海・西尾幡豆市民映像祭「Vフェス」
  - ・ 附属岡崎小学校の2年生・5年生が「食ま  
るファイブ」観劇
  - ・ サイバーボランティア委嘱状交付式
- ・ 文部科学省池田大学振興課長が本学を視察
- ・ 知立中学校1年生が本学教授を訪問
- ・ 特別支援教育特別専攻科に学ぶ現職教員と松田学長が懇談
- お知らせ・報告・投稿
  - ・ 新理科実験教材「ロケット・チューブ」発射実験
  - ・ 「平和と人権」特別授業
  - ・ 催しもの案内

## 省エネニュース@愛教大

2011年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」で省エネに関するニュースをお知らせします。今回はNo.15(作成は「省エネワーキンググループ」)です。冬の省エネのポイントを紹介します。皆さん、引き続き、節電にご協力ください。

### NO15 温水洗浄・暖房便座で節電

## 冬の「温水洗浄・暖房便座」節電対策



- ①使用後は、必ずフタをして下さい。
- ②暖房便座や温水の温度は、低めに設定しています。



フタ開けっ放しは「NO」!

### ●温水洗浄・暖房便座「省エネ」のポイント

使用後にフタをすることで13%(6.5W)節電できます! (\*開放時比 TOTO(株)調べ)



## 行事予定(2/1-15)

- 1日(水) 教務企画委員会 (13:30～ 第三会議室)  
学生支援委員会 (13:30～ 第五会議室)  
大学改革推進委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 7日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)  
代議員会 (15:00～ 第五会議室)
- 8日(水) 代議員会 (13:30～ 第五会議室)  
教育研究評議会 (代議員会終了後, 第五会議室)
- 10日(金) 附属学校運営委員会 (15:00～ 学長室)
- 14日(火) 経営協議会 (10:00～ KKRホテル名古屋)  
役員部局長会議 (経営協議会終了後, KKRホテル名古屋)
- 15日(水) 代議員会 (13:00～ 第五会議室)  
教員人事委員会 (13:30～ 第五会議室)  
財務委員会 (15:30～ 第五会議室)  
男女共同参画委員会 (17:00～ 第三会議室)

## トピックス

### 招へい研究者による第3回講演会(1/18)

タイの協定校であるラチャパット・チェンライ大学の日本語講師ポンテープ・スワンナサク先生を講師に迎えた講演会が1月18日(水)、大学会館「中集会室」で開催された。

スワンナサク先生は、本年度から本学が開始した「海外協定校からの教職員招へいプログラム」による招へいを受け、「日本とタイ、城の比較研究」という研究テーマの下、昨年11月から3カ月間の予定で本学に滞在している。



講演は、タイの国紹介及び日本の城とタイの王宮に関する研究報告を主な内容としたもの。国紹介でチェンライやタイの古都チェンマイを中心とした北部タイの独自文化が紹介されると、参加者は見聞きし慣れたタイ文化との違いに熱心に耳を傾けていた。研究報告では、今回の来日でフィールドワークを行った彦根城、名古屋城及び安土城跡それぞれの築城の歴史や構造についての詳細にわたる説明と、エメラルド寺院など日本人に馴染み深いタイの王宮の構造についてタイの歴史を交えながらの概要紹介が行われた。

講演終了後には、本学での指導教員を担当した岩崎公弥理事が「日本とタイ、それぞれの国の支配者の居城である城と王宮を比較するという研究テーマの可能性について大いに期待するとともに、研究を通じてタイと日本の交流を深めていただきたい」とあいさつした。

2月には、韓国の協定校2校からの招へい研究者による講演会が実施される予定。

(教育創造開発機構運営課 国際交流センター 宮内 春菜)

### 共同大学院博士課程開設の懸垂幕を設置 (1/19)

本学と静岡大学による共同教科開発学専攻の4月開設をアピールする懸垂幕が、1月19日(木)午前、本部棟外壁に掲げられた。

国立大学法人同士での共同博士課程設置、教員養成系での共同博士課程設置は共にこれが初めて。両大それぞれの大学院教育学研究科に設置して、各大学の特色を生かした共同教育課程を組み、同一のカリキュラムで進めていく。現職教員や社会人でも休職することなく講義や研究指導を受けられるよう、基本的に土曜日、日曜日、夏休みなどの長期休暇を利用して講義・指導が行われる。2月8日(水)まで願書を受け付け、2月19日(木)に入試が行われる。



## 育児トーク昼食会(1/20)

教職員が仕事と家庭を両立するために子育てについての不安、要望を話し合う「育児トーク昼食会」が1月20日(金)の昼休みに、本部棟第二会議室で行われた。



主催は本学の男女共同参画委員会(次世代育成支援ワーキング)。同委員会の委員、教員、事務職員など9人が参加し、鏡山典子委員の司会で、育児に関するトピックについて話し合った。育児休暇中の女性職員からは職場復帰について「仕事を覚えているか、以前と同じペースで仕事ができるか不安」、男性職員からはパートナーへの支援について「互いの業務を比較して、自分の方が時間の都合がつか

で、できるだけ支援したい」などの意見が、学内保育所設置については、「ぜひ欲しい。近くにあれば何かあった時にすぐに見に行ける」「家庭の育児の方針に合う保育所なら利用したい」「利用者が少数なら不要。それより各種の補助金を増やす方がよい」など賛否の意見が出された。大学への要望も「小さな子どもがいる職員が早く帰宅できる雰囲気があると帰りやすい。上司から一言がもらえると嬉しい」「妊娠中の事務職員はインフルエンザなどの予防のため、多くの学生に接する部署を避けるようにできるといい」など、様々な提案も出された。

## ブックツアー購入図書を附属図書館で展示(1/20-2月下旬)



附属図書館では1月20日(金)から、2011年度ブックツアー購入図書の展示が始まった。

ブックツアーは、講座・専攻の枠を越えた学生の自由な発想のもと、図書館に置く本を選ぶという企画で、本学では昨年度から実施されている。本年度は、11月30日(水)に名古屋高島屋の三省堂書店で実施され、参加者の院生4人(理科教育専攻、芸術教育専攻、学校教育臨床専攻)が選んだ73冊を購入した。

附属図書館ではこれらのブックツアー購入図書を広く利用してもらうため、2階カウンター前に専用展示スペースを設置。学生目線で選ばれた本ということで、早速、本を手にする利用者の姿が見られた。

購入図書リストは附属図書館ホームページ(お知らせ)から閲覧可能。この展示は2月下旬まで行い、その後は通常通り書架に置かれる予定。(教育研究支援部 情報図書課 稲葉裕美)



## 碧海・西尾幡豆市民映像祭「Vフェス」(1/22)

「碧海・西尾幡豆市民映像祭Vフェス」が1月22日(日)、刈谷駅前の刈谷市産業振興センターで開催され、最終選考に残った本学学生5人が制作した作品も紹介され、優秀賞を受賞した。Vフェスは同映像祭実行委員会が主催するビデオコンテストで、今回が8回目。午後1時過ぎ開会し、来賓あいさつに続いて、約60人が見守る中、応募総数78点の中からノミネートされた8作品が順次、上映された。

本学学生の作品は「Let's study ニホンGO!!」(約9分)。制作者は河井美奈枝さん、今井雄太さん、大原京子さん、金岩聖さん(以上中等社会)、山肥田愛さん(初等社会)のいずれも4年生。「雨と飴」「橋と箸」など発音で意味が変わる日本語に留学生が戸惑いながら勉強していく姿を描いた。制作には3カ月ほどかか





り、日程が合わず、皆が揃って収録することができず、苦労したという。他の3作品とともに優秀賞となり、本学学生のチャレンジに会場から拍手が送られた。

審査の結果、最も優秀なグランプリは西尾市民の練習から演奏会までの9カ月を追った「市民で歌う第九」が受賞。準グランプリには西尾市との合併で施設などの町名が変わった様子を中学生が丹念に調べた「合併で一色の何がどう変わった」と安城市の神社のユニークな神事を紹介した「不乗森神社・湯立神事」の2作品が選ばれた。

### 附属岡崎小学校の2年生・5年生が「食まるファイブ」観劇(1/24)

1月24日(火)、本学の附属岡崎小学校で、「食まるファイブ」の劇が上演され、2年生と5年生の児童が、バランスのよい食事の摂り方について楽しみながら学びました。

愛教大西村研究室で考案され「食事バランスガイド」に対応させたキャラクター「食まるファイブ」を活用して、食育の学習を進めていくもので、愛知県農林水産部食育推進課が実施している事業の一環で行われています。

劇は、朝食を食べてこなかった「フルーツまる」が、メタボ軍団に負けそうになり、「りきまる(主食)」, 「にくまる(主菜)」, 「べじまる(副菜)」, 「ほねまる(牛乳・乳製品)」の協力でやっつける内容。メタボ軍団や女神様に扮した副校長や担任の熱演もあり、子どもたちを大いに喜ばせました。

劇の後には、西村敬子名誉教授が「食まる先生」として登場し、食事は5色そろうように食べることが大切、といった栄養面のバランスについてお話をさせていただきました。

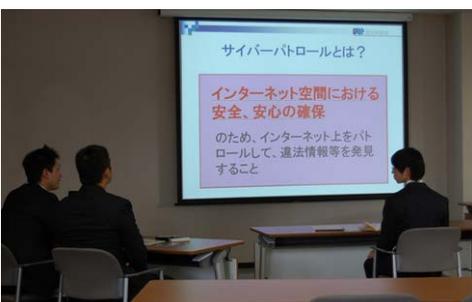
今後、5年3学級の子どもたちが、2年生の子どもたちに、好き嫌いなくバランスよく食べること、給食を残さないで食べることの大切さを伝えるなど、食育の学習を進めていく予定です。ここでの学びや家庭科で学習したことを生かして、栄養のはたらきや食材の栄養について、紙芝居、ペープサート(紙人形劇)、絵本、劇などを作り、他の低学年にも広げていきたいと考えています。

(附属岡崎小学校教諭 杉山文子)



### サイバーボランティア委嘱状交付式(1/26)

ネット犯罪から子どもたちを守るために組織された「サイバーボランティア」の委嘱状交付式が、1月26日(木)午後1時30分から、本部棟第五会議室で行われた。



はじめに、ボランティアに参加する3年生の学生が、愛知県警察本部生活安全部生活安全総務課サイバー犯罪対策官、後藤久雄警視から委嘱状を交付された。引き続き、県警による、ネット上で有害サイトを発見・通報する「サイバーパトロール」のための知識や検索方法、



見つけた場合の通報方法，検索する時の注意事項についての講習が行われた。交付式と講習を終えた学生は，「教員になる上で，一つの経験としてこのような活動ができればと思い応募しました。これからの経験で役に立ちそうと実感できればと思っています」と語った。

サイバーボランティアの活動は，サイバーパトロールのほかに，チラシの配布等の広報活動や，小・中学校などで児童・生徒に講話するサイバー防止講話もあり，愛知県で116人の大学生が，サイバーボランティアに登録している。

県警から「愛教大は教育大なので，今後は小中高で講話してもらいたいと期待しています」との言葉があった。県警では今後も随時ボランティアを募集する。

### 文部科学省池田大学振興課長が本学を視察(1/26)

1月26日(木)，本学の現状を知るため，文部科学省高等教育局大学振興課の池田貴城課長，同課教員養成企画室教育大学係の木谷慎一係長が，本学と附属学校を訪問した。

2人は松田正久学長と宮川秀俊附属学校部長が同行し，まずは，附属養護学校(附属特別支援学校)の状況を視察。小川正光校長との意見交換のあと，学校内の教室を見学し，ふれあい給食会に参加。小学部の児童への給食指導を参観するとともに，郷土料理が取り入れられた給食を試食した。同校の児童・生徒たちはの元気いっぱい，笑い声を響かせ，明るい雰囲気の中で視察を終えた。



次に，刈谷市の大学へ移動し，学長室で役員との意見交換を行った。学長から，愛知県の教員養成コンソーシアムとそこでの会長校としての本学の役割や，コンソーシアムのあり方などが説明されると，それに応じて，池田課長から国公立連携の重要性が述べられ，今後の地域における連携や機能による連携への期待を語られた。

また，博士課程の設置にかかる協力について学長から謝意が示されるとともに，現在の準備状況について都築繁幸理事から説明を行った。その後，教員養成のあり方，教育課程等をめぐって，率直な意見が飛び交ったが，総じて，本学が置かれている現状や，国への要望事項を具体的に説明する意見交換のよい機会となった。



その後，第一共通棟に移り，松山美重子講師担当の授業「国語科研究A」を視察。学生たちが班に分かれ，工夫しながら詩の朗読発表をしているところを見学。続く，木村博昭教授，衣川彰人准教授担当の「書道演習(国語選修)」の授業では，集中して書道に取り組む学生たちの様子を見守った。授業見学後，池田課長，木谷係長からは，教員養成ならではの授業を面白く見学でき大変よかったとの感想が述べられた。

最後に，附属図書館アイ♥スペースで現在開催中の「日本とドイツ人捕虜」展の展示と，書庫にある教科書コレクションを見学した。

池田課長は本年1月6日付で現職に就任，教員養成大学の現状をよく知りたいと今回の視察が実現。この日は1日かけて視察，役職員との意見交換が行われ，本学としても有意義な1日となった。

(総務課長 濱田泰栄)



### 知立中学校1年生が本学教授を訪問(1/27)

知立中学校の生徒3人が，1月27日(金)，本学を訪問した。この訪問は，同中学校1年生がキャリア教育の一環として「将来なりたい職業」について調べ学習を行っており，今回は実際

に働いている人や事業所等を訪問し、そこの方々に直接質問したり話を聞いて、より学習を深めるのが狙い。

生徒らはこの日、知立駅から大学まで、名鉄バスで来学。10時40分に秘書広報課を訪れた後、職員の引率で、事前にアポイントをとっていた教授の研究室に向かった。

バイオテクノロジーの分野に興味のある生徒は理科教育の菅沼教授を訪問。彫刻に興味のある生徒は美術教育の宇



納一公教授を訪問。翻訳に興味のある生徒は外国語教育の道木一弘教授を訪問した。

菅沼教授を訪問した生徒は、「今の仕事で楽しいこと、大変なことは何」「研究の内容は自分の好きなテーマでできるのか」など事前に考えていた質問をしたり、根粒菌について熱く語る教授の話を、時折メモをとりながら真剣なまなざしで聞いていた。



### 特別支援教育特別専攻科に学ぶ現職教員と松田学長が懇談(1/30)

本学特別支援教育特別専攻科に学ぶ現職教員と松田正久学長との懇談会が1月30日(月)午前9時30分から学長室で行われた。

同専攻科には、愛知県と名古屋市から派遣された教員を含め、現職教員7人が学んでいる。これまでの研修の成果や今、学校教育現場で起きている課題などが懇談された。



発達障害の子どもが増加する傾向にあるため全ての教員に特別支援教育の知識が必要であること、弱視や難聴の子どもも通常の学校で増える傾向にあるため特別専攻科で視覚障害・聴覚障害教育領域の教員免許状が習得できるよう教育課程を編成してほしい、大学(講座)と附属養護学校と県立特別支援学校の3者が共同で研究を推進して

いく体制づくりを促進してほしい、図書館開架図書に特別支援や発達障害に関する図書を揃えてほしい等の意見が出された。

松田学長からは、2013年度以降、教員養成課程では「特別支援教育」を必修化する計画であること、「高大連携入試」では愛知県教育委員会と連携して県下の特別支援学校で学ぶ生徒の推薦制度を導入したこと、来年度の愛知県教員採用試験から障害学生の1次試験免除の特別推薦制度が開始されること、図書館には「教員養成」や「教育」などのタイトルを持つ図書は系統的に揃えてほしい旨お願いしているので、そこに発達障害などの項目も入れたいこと等、本学での取り組みが紹介された。

終始、和やかな雰囲気ですれぞれが意見を述べ合い、約50分の懇談会が終了した。

(学生・連携担当理事 都築繁幸)

### お知らせ・報告・投稿

#### 新理科実験教材「ロケット・チューブ」発射実験(報告)



小学3年生の理科では、ゴムを利用して物を動かすことができることを学びます。教科書では自動車のおもちゃを使う実験が紹介されていますが、車輪と車軸の自作は困難であり、教材メーカーのキットを使わざるを得ない状況となっています。今回、車輪を必要としない実験教材ロケット・チューブを開発し、昨年12月2日(水)と7日(水)

に豊明市立大宮小学校での授業で使用していただきました。

ロケット・チューブの本体はトイレトペーパーの芯など身近なものを使用し、1台あたり約20円で製作できます。手提げホルダーに輪ゴムを取り付け、弓矢の要領で弾いて本体を飛ばす教材です。まず、図工の授業で本体の作成を行い、カラス、飛行機、魚、タコなど、個性豊かな本体が完成しました。次に、理科の授業で発射実験を行いました。最高飛行距離は18.6mでした。ロケット・チューブと教材メーカーの自動車キットでは、どちらが面白かったかを聞いたところ、47%の子どもがロケット・チューブと回答し、自動車と答えた子どもは10%でした(残りの43%は両方と回答)。また、実験で分かったことを作文させたところ、74%の子どもの作文に、ゴムを伸ばした方が良く飛ぶなど、科学的な内容が含まれていました。



今回の実験で使用したトイレトペーパーの芯は、本学のトイレで回収されたものです。芯を快く提供していただきました方々、および、研究に協力していただきました豊明市立大宮小学校の方々に感謝致します。

(科学・ものづくり教育推進センター研究員 佐々田俊夫)

### 「平和と人権」特別授業(報告)

「平和と人権」の非常勤講師大棟耕介氏による授業が12月21日(水)13時20分から16時30分まで、第二共通棟421教室で開催された。授業の対象者は平和と人権入門の3クラス、約100人。今回は学生以外の聴講も可能で、院生、教職員の参加もあった。



大棟氏は、「笑いの伝道師」クラウンとして世界的な活躍をされるとともに、ホスピタルクラウンとして、難病のこどもたちへの支援活動を続けている。授業は、クラウンとしてのパフォーマンスに始まり、以前テレビで放映されたホスピタルクラウンとしての活動のDVDを視聴し、風船を使ったユーモアたっぷりのパフォーマンスを交えながら時に笑いの起こる講演が開かれた。同氏は「病院では、クラウンは、病気を治す医

者でもなく、頑張れと励ます家族でもなく、長期療養している子どもが、病院では息苦しいと感じるところを、ちょっと窓を開けて、ちょっとガス抜きの立場だと思っている」「みなさんに『夢を持って』とは言わない。なぜなら目標がなくなると辛いことを自分の経験から知っているから。ただ、目の前のことを一生懸命に真剣にがんばることで夢は自然に膨らんで、近づいてくる」と生き方についても話した。

同氏は東日本大震災の被災地を80回以上訪問。その活動を通して、笑いは伝播する、笑うことの素晴らしさについても語った。

また、平和とは「大きなことでなく、全ての人が両隣りの人に優しくすれば平和になるのではないか」、人権とは「今に感謝して真剣に勉強すること。それが被災地の為になる」とも。

講演後、熱心な学生からの質問も途切れることなく、時間の限り、学生からの質問に答えた。最後に、「自分の夢は、自分の基盤をきちんと作りたい。そして、15年後に病院にクラウンが当たり前になる文化をつくりたい」との夢を語り、大きな拍手とともに授業を終了した。



### 催しもの案内

- ◆第2回LA防災セミナー企画 「日本沈没」DVD上映会  
2月1日(水)15:00~18:00

自然科学棟 538 室

小松左京原作、藤岡弘主演のパニック映画「日本沈没」を上映し、防災について意見交換する。

問い合わせ：リベラルアーツプロジェクト 高橋真聡

教育創造開発機構運営課 TEL 0 5 6 6 - 2 6 - 2 7 1 7

◆展示「東日本大震災と日本の転換をどう教えるか」

2月6日（月）～29日（水）休館日を除く

附属図書館アイ♥スペース

東日本大震災後、日本が迎えている転換期を教育の観点からどのように教えるかを、具体的な授業での取り組みや学生のボランティアの現地での活動等を紹介。併せて図書館で収集した震災に関する図書資料を展示。

◆第3回LA防災セミナー「東日本大震災と日本の転換—経済と教育の視点から—」

2月8日（水）13：30～15：00

第一共通棟 201 講義室

講師：岩田年浩氏（大阪経済法科大学客員教授、前関西大学教授、前経済教育学会会長、経済博士）

対象：教職員、学生、一般

現代学芸課程国際文化コース国際社会履修モデル、教育創造開発機構リベラル・アーツプロジェクト主催。東日本大震災の発生によって迎えた社会の転換。経済と教育の視点から震災後の日本の行方を考える。

問い合わせ：地域社会システム講座 水野英雄 TEL 0 5 6 6 - 2 6 - 2 5 0 7

LAプロジェクト 内山弘美 TEL 0 5 6 6 - 2 6 - 2 5 5 2

◆愛教大の造形展

2月11日（土）～19日（日）9：30～16：30 入場無料

愛知県陶磁資料館 本館1階ギャラリー（瀬戸市）

造形文化コース陶芸専攻卒業生と現役の学生によるグループ展。

問い合わせ：愛知県陶磁資料館 TEL 0 5 6 1 - 8 4 - 7 4 7 4

## 編集後記

2月3日は節分、皆さんはどのように過ごしますか。わが家では一大行事として、毎年、古くから付き合いのあるお寺でお経をあげてもらった豆を持ち帰り、午後6時に家族全員集合。決まった数の豆を食べ、海苔巻ずしを恵方を向いて丸かじりしたら、残りの豆を戸主が「鬼は外～！福は内～！」とまいて回ります。周囲の人からは「いまどき、そんなことやってるの!？」と驚かれ、自分でも「面倒だな」と思いながらも、何だか心が躍るのは、「立春」の前日だからでしょうか。今年は亡くなった父親に代わって、日本中に「春（＝福）」を呼び込むつもりで豆をまきます。受験シーズン真っただ中、受験生の皆さんにも素敵な春が訪れますように。（K）

## 投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者：総務担当理事 折出 健二